

## 第6学年 国語科学習指導案

指導者 山本 竜太

日 時 平成24年10月9日(火) 5校時

単元名 自分の考えを明確に伝えよう

教材名 「平和のとりでを築く」 大牟田 稔 光村図書 6年

## 単元について

## 単元観

本単元では東日本大震災の惨状を伝える象徴的なもののひとつである、民宿の上に乗り上げてしまった観光船「はまゆり」を保存すべきか否かを、自分の考えを明確にしてより説得力ある文章にして書くことを最終的な学習のゴールに設定した。そのために、明確な意見が表明されている教材「平和のとりでを築く」を読み、読者をより納得させる論の進め方や表現の工夫に注目して読み取っていく。

本教材は、論説型の説明文である。世界平和を強く願う筆者の主張は、題名と呼応させた「結論」の最後の一文に凝縮されており、筆者の主張や表現の意図がとらえやすい文章である。「本論」では、原爆ドームを話題とし「原子爆弾による惨禍」に加え、「世界遺産への道のり」の史実を取り上げて世界平和を強く願う筆者の主張に結びつけ、読み手を説得している。以上の点から、学習のゴールへ向けて適した教材と考える。

## 児童観

本学級では、昨年度から文章全体を大きく序論—本論—結論の三つに分ける読み方や段落ごとの要点のまとめ方、要旨の捉え方等説明的文章の基本的な読み取り方をリライト教材等を用いながら継続して指導してきた。また、ドリルタイムでのスピーチも5年生の頃より継続して行い、「より説得力ある発言」をテーマに行ってきた。用紙いっぱい文章を書くことも習慣化している。しかし、「筆者の論理の展開の工夫」に焦点化した学習はあまり行っておらず、用紙いっぱい書かれた文章も、けっして論理的とは言えない児童も多い。また、学力差が非常に大きく、個別の支援が必要な児童も少なくない。

## 指導観

指導にあたっては教材の特性及び本学級児童の実態を踏まえて、次のような指導の工夫を行う。

## ① 「書くために読む」という目的を明確化

観光船「はまゆり」を保存すべきか否か、について説得力ある文章を書くという単元のゴールを明確化し、そのために「平和のとりでを築く」から学ぶのだということを常に児童に意識させて学習を進める。

## ② 筆者の論の進め方に着目しながら読む。

「具体と抽象の関係性」「読者を引き付ける文章表現の効果」「要旨を明確に読者に伝えるための段落構成」等に視点を当てて、検討させる。

## ③ 自分の考えを深めさせる段階的な学習活動

一人学び⇒少人数での対話⇒全体交流の段階的な学習活動を取り入れ、支援を要する児童も自分なりの考えがもてるようにする。

## 単元の目標

○より読者を納得させる筆者の論の進め方や工夫に注目して文章を読もうとしている。

【国語への関心・意欲・態度】

◎自分の考えを明確に表現するため、文章構成の効果を考えて、意見文を書くことができる。

【B書くこと(1)イ】

◎筆者の主張や読者をより納得させる論の進め方の特徴をとらえながら読むことができる。

【C読むこと(1)ウ】

○文章の構成について理解する。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(キ)】

## 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
「はまゆり」を保存すべきか否かの意見文を書く言語活動を通しての指導			
明確な意見をもった文章を読み、説明方法に興味を持って読もうとしている。	自分の考えを明確にし、文章構成や効果的な表現方法を工夫して、意見文を書いている。	筆者の主張を正しくとらえ、それを読者により納得させる論理の展開に注目して読んでいる。	文章の構成を理解している。

## 指導計画 (全9時間)

	主な学習内容	時数
つかむ	東日本大震災で被災した観光船「はまゆり」を保存すべきか否か、自分の立場を明確にして、自分の考えを、より説得力のある文章で書く学習課題を知る。 ○「はまゆり」について、双方の考えがあることを知る。	1
深める	「平和のとりでを築く」を読む。 ○文章構成をつかむ。 ○要旨をとらえる。 <b>○文章全体から、より相手を説得させる筆者の説明方法の工夫をつかむ。</b> ○筆者の表現の意図に対して、自分の考えをもつ。	4 本時 3/4
広げる	観光船「はまゆり」を保存すべきか否か、「平和のとりでを築く」から学んだ説明方法の工夫を生かして、自分の考えを書く。	4

本時の学習展開について

本時の目標

自分の意見に、より説得力をもたせるために筆者が行っている説明方法の工夫に気づくことができる。

本時の評価規準

原爆ドーム保存反対の考えを取り上げることで、保存賛成の考えがより強調されることに気づいている。(読む能力)

過程	学習活動	指導上の留意点 ◆個に応じた支援 ★評価規準【方法】
つかむ	1 前時までの学習を想起する。 2 めあてをつかむ。 筆者が行っている説明方法の工夫を見つけよう。	◇指導上の留意点 ◆個に応じた支援 ★評価規準【方法】 ◇序論、本論、結論の三段構成や要旨が何であったかをノートをもとにふり返る。
	3 教材文を音読する。 4 6段落の内容を再度確認する。 5 6段落を書いた筆者の意図を考える。 <b>なぜ筆者は保存反対論について書いたのだろうか。</b> ① 一人学びで、自分の考えを持つ。 ② 対話し、友達と考えを交流する。 ③ 対話した内容を全体交流し、考えを深める。 ・みんながみんな原爆ドームの保存に賛成していたわけではないことを伝えたかったから。 ・原爆ドーム保存までの道りが簡単ではなかったことを伝えたかったから。 ・保存反対という主張を取り上げることで、より保存することの重要性を強調したかったから。 6 6段落、7段落をリライトし、6段落の意図を再確認する。	◇4段落から8段落をめあてを意識させながら読ませる。 ◇6段落がなくても文章は成り立つことを確認する。その上で、筆者はなぜあえて6段落を設けたのかを考えさせる。 ◇自分の考えをノートに書かせる。 ◆考えをもちにくい児童には、6段落なしの文章とありの文章を比較させ、6段落があることでのよさに目をむけさせる。また、ドリルタイムで行っているスピーチの際によく児童が使っている「たしかに～です。しかし～」という言い方を想起させ、どのような印象を受けるか考えさせる。 ◇対話の際、「自分の考えと同じところ」「自分が思いつかなかった考え」に気をつけて聞いて対話するように助言する。 ★原爆ドーム保存反対の考えを取り上げることで、保存賛成の考えがより強調されることに気づいている。 【ノート・発言】
深める・かかわる		◇段落の要点をもとに、「たしかに～です。しかし～」の文型に言い換える。
まとめる	7 本時のまとめをし、振り返る。 8 次時の学習課題を知る。	◇児童の身近な文章2種類を提示し、比較することを通して、文章構成や論理の展開を工夫することで、より説得力ある文章になることを教える。 ◇「世界遺産への道り」(9段落～11段落)の事例が本当に必要なのかを考えることを伝える。

板書計画

<p>まとめ 文章構成や論理の展開を工夫することで、より説得力ある文章になる。</p>	<p>自分の考えを明確に伝えよう 平和のとりでを築く 大牟田稔</p>	<p>めあて 筆者が行っている説明方法の工夫を見つけよう。</p>	<p>序論 ① 本論 ②③ 結論 ⑩⑪⑫⑬</p>	<p>要旨 原爆ドームは、それを見る人の心に平和のとりでを築くための世界の遺産なのだ。</p>	<p>6段落がなくても意味は通じる</p>	<p>なぜ筆者は保存反対論について書いたのだろうか？</p>	<p>班ごとの児童の考え</p>	<p>班ごとの児童の考え</p>	<p>6段落、7段落をリライトした文章</p>	<p>Aの考えのよさだけを書いた例文</p>	<p>Bの考えのよさを取り上げ、その上でAのよさをかいた例文</p>	<p>説得力が増す</p>
---	---	---------------------------------------	-----------------------------------	---	-----------------------	--------------------------------	------------------	------------------	-------------------------	------------------------	------------------------------------	---------------